

☆リモートで講義を受講した生徒から吉田教授へのお礼と感想

2年 F.Jさん

拝啓

本日はご多忙の中、本校までご来訪いただき、志望理由書の書き方についての講義を担当してくださいまして厚く御礼を申し上げます。

今までは志望理由書などに自分の意見を書くときに、意見だけを述べれば良いと思っていました。しかし、本日の講義を受けて、読み手側である相手に伝えるために自分がどう考えたのかを書くことが大事だと感じました。また、私が志望理由書を書く際によく使用していた「私は思う。」等の文末表現は、読み手側に自分の意志が弱く捉えられてしまうというお話を伺い、今後は大学についてよく調べ上げたり大学などの現場に行ったりすることで自分の経験を増やし、意志の強い文章を作り上げられるようにしたいと思いました。さらに、自分が伝えたい情報や大学に入学し学びたいという意欲をしっかりと伝えるためにも、指定文字数ギリギリまで書きたいと思います。志望理由書には読み手側が求めている内容を書くことがポイントだとおっしゃっていたので、意識して文章を書きたいです。

最後に、講義を通して一番印象に残ったことは、自分の良いところを積極的に探し出し、大学での学びの土台とするために今学んでいることを大事にすることが自己PR文を書くコツであるというお話です。自分が目指す将来像を具体的に書くためにも、日々の生活をもう一度見直し、前向きに行動していきたいと思いました。

この度はお忙しい中、誠にありがとうございました。

敬具

2年 M.Mさん

この度はお忙しい中ご足労いただきありがとうございました。

これまで探究の時間に何度か志望理由書を書いてきましたが、私はなかなか自分の納得のいく志望理由書を書けず悩んでいました。しかし、今回の吉田教授のお話を伺い、自分の志望理由書の改善点が以前より明確になりました。今回のお話の中には、「原稿用紙の使い方を守る」や「名称や数字を正しく書く」など基本的なこともありましたが、この“基本”がいかに重要なことかと再認識しました。思い出してみると、中学生の頃に高校受験のために書いた志望理由書は自分では出来ていると思っていても基本的なことを訂正されたことがたくさんありました。今後は基本的なことから気に留め、より良い志望理由書を書こうと思います。また、「自分の将来像と大学で学びたいことの関連性」については以前担任の先生からも指摘を受けていたので、その重要性を改めて実感しました。私はまだ将来何をしたいか明確に決まっていないので、自分の将来像をはっきりと描くことは少し難しいように感じます。志望理由書の作成にあたって将来像をはっきりと描くことが必要だと学んだので、これまでより未来の自分としっかり向き合ってみようと思います。

今回伺ったお話の中で、様々な項目が「大学をよく知る」ことに繋がっているように感じました。添削の中で大学のパンフレットを読むだけでは不十分で、実際に大学に行き説明会やオープンキャンパスに参加することも重要であると知りました。コロナ禍で大学に行くことが難しくなっていますが、この状況下でいかにして大学に触れることができるかを考え実行していくことで、入学したいという意志を強く示すことが出来ると考えました。

吉田教授のお話には、これからしっかりと考えていくべきことだけではなく、文末の「思う」を「考える」に直すなど、とても簡単で今すぐにも実践できることもあったので、最終的に完璧だと思えるような志望理由書に少し近づけていこうと思います。志望理由書を書く時間が十分にあるこの時期にお話を拝聴でき、貴重な機会となりました。今回得たことは受験以外でも必要となることを忘れず、これからの活動に活かしていこうと思います。

改めてこの度はありがとうございました。



○横浜薬科大学 吉田佳恵教授による「志望理由書の書き方講演会」の様子と生徒の感想

☆添削をしていただいた生徒から吉田教授へのお礼と感想

2年 K.Sさん

【添削をしていただいた文章】

横浜薬科大学 薬学部 臨床薬学科 (総合型選抜)

自己アピール文 本学を志望する動機、本学科志望の理由、勉学の意欲そして目指す自分の将来像などが必ず含まれるように800字以内で記入。

私の家庭は、両親が薬に関わる仕事に携わっているため常備薬が整っており、体調が優れない時には早期に対処できる環境で育ちました。中学時代に将来の職業を考えるようになり、多くの人へ症状に合った薬を届けられる仕事に就きたいと考えるようになりました。高校に入学してからは、薬を適切に患者へ処方する仕事、薬剤師に魅力を感じるようになりました。現在、薬学について専門に学ぶ事ができる貴学への進学を強く希望しています。

貴学でいくつかの体験を行った中で最も印象に残ったことは、身近な医薬品である鎮痛剤の作用を学び、消炎鎮痛剤である湿布独特の匂いがどのように発生するのかを調べた実験です。エステル化された液体のサリチル酸メチルは塗り薬に特化した消炎鎮痛剤、アセチル化された固体のアセチルサリチル酸は飲み薬に特化した解熱鎮痛剤として、サリチル酸の副反応を押さえ、それぞれの特性を活かした治療薬になる事が理解できました。この実験からヤナギ樹皮由来の化合物をさらに考察したくなりました。サリチル酸化合物が19世紀以降から現代まで、世界中で使用され続けている事を改めて感じ、鎮痛剤の有効成分であるサリチル酸化合物の反応に興味を持ちました。親族が慢性関節リウマチで長期にわたり痛みと関節の変形に悩まされる中、服用している医薬品の一つがサリチル酸化合物です。薬を慢性的に服用することの功罪や身体への作用などを大学でより深く学びたいと考えています。

貴学ではリウマチを専門としておられる先生がいらっしゃることから、先生のもとでリウマチと薬学について学ぶ事を目標の一つにしています。私が目指す理想の薬剤師像は、薬の投与量や期間など、患者の治療を近くで支える「惻隱の心」を持った医療人です。正確かつ迅速な判断で処方ができる知識と技術を身につけるために、日々薬品の学びに取り組む決意を持っています。

【講演会後の感想】

この度は志望理由書の書き方の講演会の中で、私の文章の特徴を取り上げていただきありがとうございました。志望理由書を書く上で注意すべき事や、受かるためのポイント等、書き上げた志望理由書を見直すきっかけになりました。

文章を書くコツとして「思う」「感じる」「ようだ」「だろう」といった文末は抽象的な表現として避けたほうが良いと聞き、日頃から文章を書く際に「思いました」や「～と感じました」の書き方をすることが多かったことに気付くことができました。自分の意思を強く伝えるときには、あまり使用しないように心がけます。

また、志望理由書を提出するにあたり、これから約10ヶ月という期間があるため、課題の文字数が決まっている場合は、90%を埋めるのではなくギリギリまで文字を書くことで、より強い意思を伝える事ができると分かりました。

例文として私の志望理由書を添削して頂いた際に「幼少期から薬が身近にあった事で、何故薬剤師を希望するようになったかの具体的な動機を充実しては」とご指摘いただけたことで、自分自身では気づく事ができなかった説明不足を知る事が出来ました。今後は自分が書いた文章をよく理解し、面接での質問を予測した準備を行います。今回の講演会で、友人や先生など多くの人に自分の文章を客観的に見てもらうという事がとても大切であるということが分かりました。

とても緊張しましたが、充実した時間を過ごすことができました。ご講話、ありがとうございました。



2年 N.Kさん

先日はお忙しい中、志望理由書の書き方について講演していただき有難うございました。

私は志望理由書を書く際に、志望動機や将来像を意識しすぎてしまい、「読んだ相手がどのような印象を受けるか」ということまで考えていませんでした。そのため、一文が「思っています」で終わってしまい、伝えたいことが全体を通して弱くなっていました。

しかし今回の講演で、「文末表現」や「字数」など、細かな表現の違いによって相手が受け取る印象が変わることを学びました。実際に文末を「思っています」から「考えています」に変えてみると、将来像がより明確になる印象になりました。

今後は面接対策に繋げるために、志望理由書を色々な人に読んでもらい、読み手が疑問に感じたことをまとめていこうと考えています。

今回の講演では、大学受験だけではなく、大学生や社会人になってからも必要な「相手に伝わる書き方」を学ぶことができました。講義の内容をふまえて、もう一度志望理由書を読み返そうと思います。

この度は、講演をしてくださり本当に有難うございました。